

THE BOSUI JOURNAL

防水ジャーナル

ROOFING/SIDING/INSULATION/RENEWAL

7

2016

No.536

特集

● ●
防水品質の見える化—施工精度から漏水調査・経年劣化まで—
● ●
コンクリート構造物の塩害対策



こんなところにゴキブリの巣!?

鈴木 哲夫

マンションの住戸内には、設備機器の設置が不可欠である。とりわけ電気関係のコンセントボックスや機器は、間仕切壁に埋め込まれるよう設置される。

あるマンションでインターホン設備のグレードアップのため、交換工事を行うことになった。現状を確認するため、住戸タイプ別に調査に入ったときのことである。配線ルートと壁内の空間を確認したかったので親機を外したところ、隠ぺい部の機器裏はゴキブリの巣があり、誤作動を起こしかねないほど、ほぼ全面にフンが付着していた(写真1)。この住戸の住人に聞いてみたら、どういふわけかインターホン親機の回りでチャバネゴキブリがよく出るのでおかしいと思っていたようだ。

親機は、配線を通すため台座パネルに穴が開いており(写真1矢印および同左上) 結線後そのまま押さえて親機本体を設置するため、親機の裏は壁内空洞とつながっている。壁内に侵入したゴキブリは、機器の発熱で温かいため、配線穴から機器の裏に侵入し、越冬場所になっていたようだ。

グレードアップするインターホン親機は、同じように穴があるため、このままの状態では同じ状況になることは明らかであった。親機の発熱により熱がこもるため、穴は大きめになっているようだ。よって、密閉はできないと作業員は言う。

そこで、写真2および図のように配線と裏穴をネットで塞ぐことを考えついた。問題は配線の束だ。テープで束ねただけでは配線の間に隙間ができるので写真3-1のように配線の間にパテを入れて束ね、同一2のようにネットを被せ同一3親機設置台座の裏を覆うことで虫の侵入を防止できる。親機設置の前に裏穴と配線を防虫ネット処理した状態が同一4である。

作業員に聞いてみたところ、これまで配線を通す裏穴にこんな盲点があるとは考え及ばなかったが、これからは設置要領に加えるようだ。

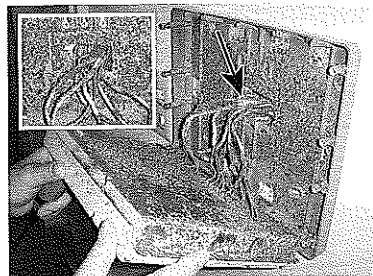


写真1 インターホン親機の内部はゴキブリの巣になった



写真2 親機設置台座裏穴と配線をつなぐ防虫ネット

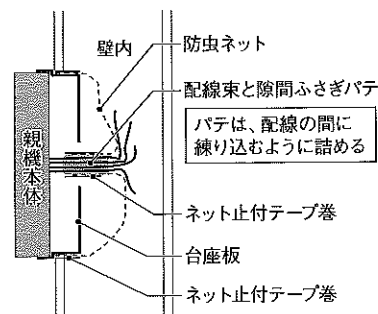
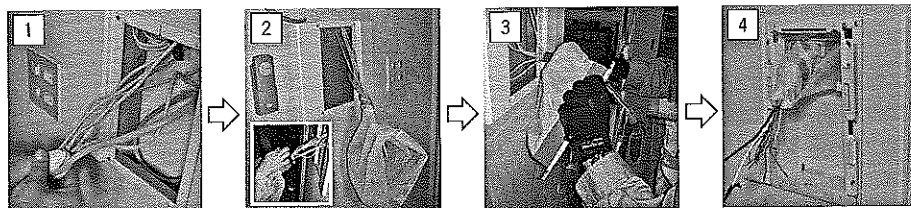


図 配線穴の防虫ネット



①配線の間をパテで隙間処理 ②防虫ネットをテープ固定 ③台座パネルにネット固定 ④配線穴防虫処理完了

写真3 配線穴隙間処理手順

(有)鈴木哲夫設計事務所 代表取締役